

令和元年度 卒業式 式辞

記録的な暖冬も終わり、そのまま春に移り替わろうとしている、暖かなこの良き日、令和元年度、卒業証書授与式を挙行できますことを誠に嬉しく思います。

本日、本校を巣立ちゆく、第七十二回生の皆さん、卒業おめでとうございます。新型コロナウイルスの影響により、三月の日程変更や公立入試、例年と違う形での卒業式の実施など、随分戸惑い、不安を感じたことでしょう。しかし、こうして、厳粛に式を行い、強いまなざしで前を見つめる皆さんを見てみると、三年間の確かな成長を実感します。誠に嬉しい限りです。さて、私は4月以降、前に立つ度、一生懸命話をしてきたつもりです。パワーポイントを使って自分を反省できる内向きの矢印の話。麦茶のパッケージから人から好かれることの大切さの話、よい学校になることで得することの多さの話、震災講話から命の大切さの話……。特に三年生を対象に話したつもりです。そして最後に、今日は「可能性の広がり」という話をしようと思います。

私は君たちの若さを心底羨ましく思う時があります。年齢を重ねることも知識や経験も増えて素晴らしい面がたくさんありますが、できなくなるものが増えていくのも事実です。しかし若いということは、体力的にも無理がきくし、失敗しても幾らでもやり直しがききます。多くの人に出会い、たくさん勉強して資格や知識を身につけるのも若い人が有利です。そんな可能性の源、「若さ」を生かさないのは勿体ない！大人の何倍も広い可能性とやり直せる時間をもっている強みをいかして、これからの人生を強く、優しく、歩んでいつてほしいと思います。

失敗しても、恥をかいても、挫折してもいいじゃないですか。世の中に無駄になる経験なんてありません。皆さんをいつも深い愛情を持って育ててくださった、ご家族の皆さま、先生方、地域の皆様への感謝を忘れず、二見中学校の卒業生であることに誇りを持ち、胸を張って生きていつてください。

最後になりましたが、保護者の皆様に、一言お礼を申し上げます。三年間にわたり、様々な学校の活動にご支援、ご協力賜りまして、誠に、ありがとうございました。これからは二見中学校が、お子様の「母校」となります。その二見中学校が、ふるさと二見町の宝として、益々、発展を遂げていきますよう、今後とも、地域の皆様と共に、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さんの輝かしい未来を祈念し、式辞といたします。

二〇一九年（令和二年）三月十七日

明石市立二見中学校 校長 矢野毅吉